

2．企業における生物多様性の確保に向けた取組

(1) 企業に対する認識の変化

国民が企業に求める社会的役割として、「環境保護」を挙げる割合は6割を超え、今後企業が社会的信用を得るために力を入れるべきこととして「環境保護」を挙げる割合は7割に達しています。このように、国民の環境保全意識の高まりとともに、企業に求められる役割も変化してきているといえます。

このような中、大企業だけでなく、中小企業、地域で活動する企業の中にも、環境保全に積極的に取り組む事例が見られるようになってきています。

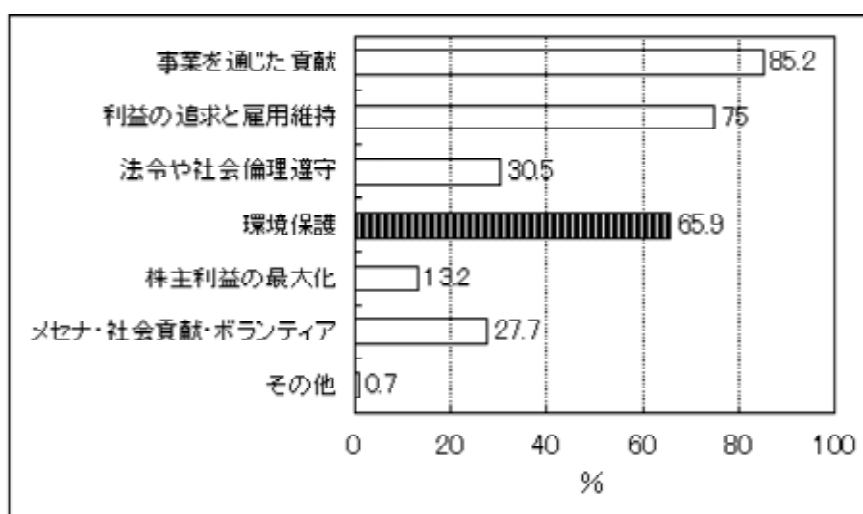


図2-1 市民が求める「企業の社会的役割」

資料：内閣府「国民生活モニター調査」(平成13年9月実施)

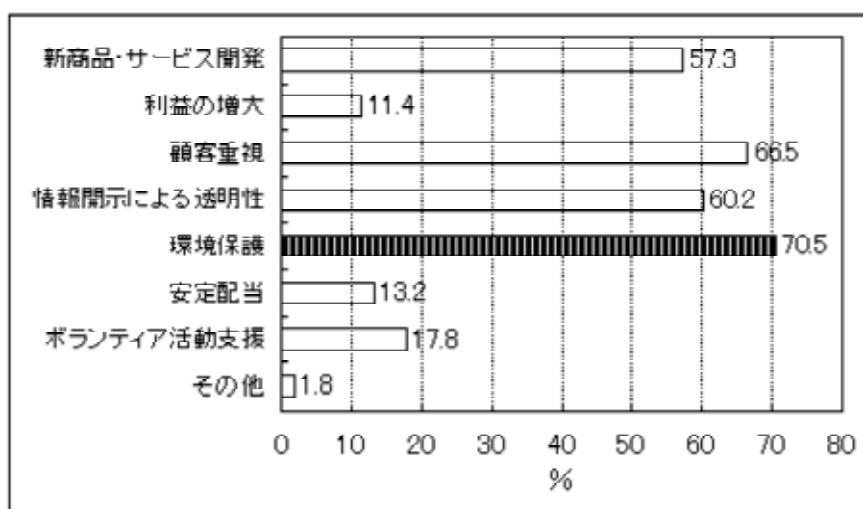


図2-2 今後企業が社会的信用を得るために力を入れるべきこと

資料：内閣府「国民生活モニター調査」(平成13年9月実施)

（２）企業（建設会社）における取組事例～十勝多自然ネット～

NPO法人十勝多自然ネットは、十勝地方で事業を行っている建設業者６社を中心に設立されたNPO法人です。建設業については、公共事業の実施に伴って、自然を破壊する悪者のイメージで見られることが多いが、実際に現場で、工事を施工することは、ある意味では、自然と接する機会が一番多いといえます。このようなことから、建設業者が自然環境を保全・再生に大きな役割を果たすのではないかと考え、主に水辺を対象に豊かな地域の環境を遺すことを目的に十勝多自然ネットは設立されました。

この十勝多自然ネットの特徴は、公共事業としてだけでなく、自らの持つ人材、資機材を活用して、市民団体と協力しつつ、自然環境の保全・整備に向けた活動を行っている点です。

売買川の魚道設置・河道環境改善

帯広市内を流れる売買川は、洪水時には被害をもたらす暴れ川のため、河床を安定させるための落差工が設置され、そのうちのいくつかは魚の遡上・降下の障害となっています。このうち落差が大きく、特に障害となっている落差工に新たに魚道を設置する取り組みを行っています。

また、これを併せ、直線的な河川に小規模な水制工を設置することにより、変化に富んだ流れを作ることなどに取り組んでいます。

なお、これらの事業は、公共事業として実施されたものではなく、施設のメンテナンスやモニタリング調査を含め、多自然ネットの費用の負担で実施されています。

事業実施前後のモニタリングからは、上流側には見られなかったウグイやフクドジョウが確認されており、魚の生息域が拡大したことがわかります。



写真１ 設置された魚道



写真２ 設置された水制

幌岡湿地ビオトープの復元

十勝川の堤防を整備するために、土を採る際に、単に平坦に採っていくのではなく、様々な植生が回復するよう、凹凸をつけて、地形に変化を持たせることにより、湿地環境の復元を図っています。このうち、十勝多自然ネットでは、凹凸のつけ方の設計提案と事前事後調査を自費で行っています。この幌岡地区では、５０ヘクタールを対象としており、大規模な湿地復元への取り組みが行われていることがわかります。しかしながら、

必ずしも地域全体としてこれに取り組むことについての合意形成がなされているわけではなく、どのように合意形成を図っていくのかという課題もあります。



写真3 造成後の様子

帯広川、札内川合流点環境改善事業

帯広川が札内川に合流する地点に親水公園の整備が行われましたが、帯広川の河口（札内川の合流点）が閉塞したことによって、水位が上昇し、公園は水没するとともに、流れがよどみ富栄養化により水質が悪化しました。

多自然ネットは以前より、現地の清掃活動を行っていましたが、このような状況を改善しようと、公開ワークショップや実行委員会を設置し、この事務局として、地域の方々と議論しながら、行政に対して、改善の提案を行っています。

行政が迂回水路を整備（工事を受注したのは、多自然ネットのメンバー以外の建設業者）した結果、水位は下がり、水質も改善しましたが、ワークショップでは、親水公園に溜まった土砂の除去や、迂回水路の多自然化を求める意見が提出され、この事業を多自然ネットが人材、資機材を提供して行うこととなりました。人工的に整備された迂回水路でのワンドの造成、水制の設置などが行われ、良好な自然環境の復元が図られています。



写真4 迂回水路の整備前（左）と整備後（右）の様子

自然環境に関する活動に、建設業者が加わることにより、従来の市民運動ではできなかった重機等を使った整備や工事実施に関する種々のノウハウの提供をできることから、今までは不可能と思われていたことに取り組めるようになるなど可能性が拡がりつつあると言えます。また、実際に現地で工事に携わる方々の自然環境に対する認識が高まることは、現地での様々な工夫につながり、自然環境保全・整備にとっては大きな意味があります。